

「春花秋実」

校長通信 1 号 長田 茅子

校長室の壁には様々な書、絵画、写真などが飾られています。

「春花秋実」もその中でも存在感のある書の一つです。西澤権一郎元長野県知事が蓼科高校の為に書かれたものようです。

「春の花に気をとられ、秋の実を忘れてはいけない」

といった意味でしょうか？席の前に掲げられていて、ずっと気になっていたのですが、今になって調べてみたら、私自身に大切な事を言われているような思いになりました。

4月に生徒に伝えた事

1, 当たり前のことを当たり前でできるようにしよう

・挨拶、礼儀、時間厳守等

2, 良い人間関係を築こう

・焦らず人との関わりを築く

生徒から学んだ事

1, 笑顔の挨拶でとても嬉しい気分になれる



埼玉県職員ランナー「川内優輝」選手と、宮澤教頭先生が川内選手のトレーナーのように救護して下さいました。

蓼科高校のシンボルについて前校長の金原先生から教えて頂きました。

ポプラ・・・創立間もないころに植えられたポプラの木は100歳を迎えようとしていた平成8年に1本は危険な状態との判断で伐採、平成11年にはもう1本が風雨により折れ倒れてしまったそうです。現在は「ポプラよ永遠に」のレリーフと校長室の「百年の年輪」玄関の花瓶台として残っています。2代目のポプラの3本の木が今でも学校のシンボルとして見守られています。「真っ直ぐで清々しい」ポプラのような精神を受け継いでいきたいものです。ポプラ祭の名前の由来にもなっています。

ふくろう・・・正面玄関の2体の2羽のミズク1羽のフクロウは、平成20年に管理棟東にあったヒマラヤ杉を伐採した際の材を使って業者の方がチェーンソーで彫って下さったものだそうです。ふくろうは「幸せを呼ぶ鳥」として親しまれています。創って下さった方の思いに感謝です。

6月14日（日）ビーナスマラソン IN 白樺湖

・総合的な学習の一環でもあるボランティア活動に生徒とともに参加しました。

長距離走にはちょうど良いお天気のなか、親子をはじめ老若男女の市民ランナーが標高1500メートルの高地を颯爽と走り切っていました。

生徒たちも、それぞれの給水所やゴールで任された仕事を積極的に行っていて、地域で活動することの意義や成果を感じることができました。